

令和6年度(令和5年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表
2次評価者

福祉部高齢介護課福祉部長 竹部 益世

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
17-1	介護予防・生活支援サービス事業	B	令和4年度から社会福祉協議会との協力により、傾聴やちょっとした生活支援等について、研修を開催しボランティアを養成し、必要な方につなげる「ちょいサポ」が始まり、ボランティア登録は少しずつ増えている。傾聴は好評で一定の利用者がいるが、生活支援については利用にうまくつながっていないため、事業の啓発や利用しやすい体制の構築が今後の課題である。	改善推進	「ちょいサポ」を着実に推進し、引き続き地域にある多様な主体による介護予防の推進と生活支援を構築する。
17-2	老人ホーム入所事業	B	入所措置を要する高齢者に係る相談等について福祉主事を中心に対応するとともに、関係機関と密に情報を共有し、連携を図ることで適切に入所に繋げることができた。また、入所者についても実態把握をすることで退所を含めて臨機応変な対応をすることができた。	現状維持	身寄りのない高齢者の増加や家族関係の希薄化に伴い、入所措置を要するケースは増える一方ではあるが、老人福祉法に則り、引き続き真に措置の必要な高齢者を適切に判断し、入所措置を行っていく。
17-3	長寿訪問等事業	B	長寿訪問については、敬老の日に合わせて市長等が高齢者宅を訪問し、長寿を祝福する気持ちを直接伝えることができた。プラチナ婚・ダイヤモンド婚・金婚を祝う会については、記念品の内容を見直すとともに、より多くのご夫婦に記念撮影をしていただけるよう、写真クーポン券の利用案内を工夫した。	現状維持	今後も敬老・長寿を祝う事業として継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。
17-4	高齢者健康祝事業	B	令和4年度から新規事業として実施しており、数え88歳の節目において、要介護等認定を受けておらず、健康寿命の延伸に貢献している方を対象に健康祝金を贈呈することで、高齢者の健康増進の励みとなった。	現状維持	高齢者の生きがいや健康促進の観点から今後も継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。
課等長	1次評価（令和5年度の総括評価）				
B	コロナ禍が収束し、対面による地域の活動が徐々に再開される中、主要事業の目標は概ね達成することができた。 長寿訪問等事業のうち、プラチナ婚・ダイヤモンド婚・金婚を祝う会については、これまでの実績や他市町村の状況等を検証しながら記念品等の見直しを行った。今後のお祝事業の在り方については、社会情勢等を踏まえながら実施方法等を検討していく。				
部等長	2次評価（令和5年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	介護保険については、介護の担い手不足などの課題があるため、令和5年度に策定した「半田市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」に沿って、高齢者を含む全ての人々がともに豊かにいきいきと暮らすことができるよう取り組んでいくこと。 高齢化に伴い高齢者の孤立、孤独死が深刻化するなか、関係機関等と連携して、高齢者が孤立することなく安心して暮らすことができる仕組みを構築する必要がある。				

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	17-1	
PDCA	主要事業名	介護予防・生活支援サービス事業	部課名	福祉部高齢介護課	担当 内線	大崎 375	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 1 - 2 単位施策： 高齢者福祉 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 231,713 千円 会計 介護保険事業特別会計 歳出科目： 03.01.01.02.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 地域のさまざまな主体が「介護予防」と「生活支援」を推進する事業であり、要支援者等を対象に、従来の介護サービス事業者に加え、NPOやボランティアなどが訪問型と通所型の各種事業を行う。					
		事業目的： 地域にある多様な主体による介護予防の推進と生活支援を構築する。					
		事業内容： 要支援者等を対象に、多様な主体による訪問型及び通所型サービスの委託、給付、補助事業を行う。					
		問題点： サービスB（生活支援型・地域支え合い型）について、利用しやすいように課題等： 事業を再構築する必要がある。					
	予算額	主要事業とする理由					
	231,713 千円	市町村が地域のさまざまな主体と「介護予防」と「生活支援」を推進し、要支援者を中心とする軽度者の生活を支えるための主要な事業。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費 56,890 千円	要支援者等の高齢者が、地域にある多様な主体による介護予防と生活支援のサービスを選択することができる。					
	国費 84,696 千円	目標値や目指すべき状態					
県費 28,521 千円	多様な主体による訪問型・通所型サービスが選択できる状態						
その他 61,606 千円							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果				主要施策の成果報告書で活用	
	225,705 千円	要支援者等の高齢者が、既存のサービスだけでなく、地域にある多様な主体による介護予防と生活支援のサービスを選択することができた。					
		成果指標					
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 令和4年度から社会福祉協議会との協力により、傾聴やちょっとした生活支援等について、研修を開催しボランティアを養成し、必要な方につなげる「ちょいサポ」が始まり、ボランティア登録は少しずつ増えている。傾聴は好評で一定の利用者がいるが、生活支援については利用にうまくつながっていないため、事業の啓発や利用しやすい体制の構築が今後の課題である。					
	今後の事業の方向性	改善推進 「ちょいサポ」を着実に推進し、引き続き地域にある多様な主体による介護予防の推進と生活支援を構築する。					
A 今後課題の解決に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	—
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない		

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	17-2	
PDCA	主要事業名	老人ホーム入所事業	部課名	福祉部高齢介護課	担当 内線	茶谷 371	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 1 - 2 単位施策： 高齢者福祉 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 70,985 千円 会計 一般会計 歳出科目： 03.01.02.13.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 環境上及び経済的な理由により、在宅での自立生活が困難な高齢者を養護老人ホームへ入所措置することで、生活を保障し、養護する。 また、養護老人ホーム入所者のうち、年間収入が90,000円未満の者に対し、生活支援のため月額7,500円的生活補給金を支給する。					
		事業目的： 環境上及び経済的な理由により、在宅での自立生活が困難な高齢者の生活を保障し、養護する。					
		事業内容： 養護老人ホーム等へ入所措置を行った場合に、その入所先への措置に要する費用を支払う。					
		問題点： 入所者の高齢化が進み、介護のケアが必要な入所者が増えている。 課題等：					
	予算額	主要事業とする理由					
	70,985 千円	(3か年実施計画事業)					
	財源内訳	老人福祉法上、入所措置が必要な者について適切に措置を行う必要がある。					
	市費 56,622 千円	得られる成果					
	国費 0 千円	在宅での自立生活が困難な高齢者の生活を養護老人ホームで支えることができる。					
県費 0 千円	目標値や目指すべき状態						
その他 14,363 千円	措置が必要となる高齢者を適切に入所させられる状態。						
D 実績得られた成果と	決算額	得られた成果				主要施策の成果報告書で活用	
	72,202 千円	関係機関と適宜連携し、入所が必要な高齢者に適切に措置を行うことができた。					
		成果指標					
		措置が必要となる高齢者を適切に入所させられる状態。					
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 入所措置を要する高齢者に係る相談等について福祉主事を中心に対応するとともに、関係機関と密に情報を共有し、連携を図ることで適切に入所に繋げることができた。また、入所者についても実態把握をすることで退所を含めて臨機応変な対応をすることができた。					
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	現状維持 身寄りのない高齢者の増加や家族関係の希薄化に伴い、入所措置を要するケースは増える一方ではあるが、老人福祉法に則り、引き続き真に措置が必要な高齢者を適切に判断し、入所措置を行っていく。					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	17-3		
PDCA	主要事業名	長寿訪問等事業	部課名	福祉部高齢介護課	担当 内線	茶谷 371		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 1 - 2 単位施策： 高齢者福祉 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 1,293 千円 会計 一般会計 歳出科目： 03.01.02.11.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用		
	事業概要等	事業概要： 多年にわたり社会に貢献した高齢者に祝金等を支給することにより、感謝の意を表すとともにその長寿を祝う。 また、結婚生活50、60、70年を過ごされた夫婦に対して、祝品を贈呈する。						
		事業目的： 高齢者に対して感謝の意と長寿を祝福する。						
		事業内容： 満100歳及び最高齢者（男女各1名）に祝金1万円を贈呈する。						
		問題点： 昨今の長寿命化により、対象者数は増加傾向にあるため、それに伴い事業費課題等： も増加している。						
	予算額	主要事業とする理由						
	1,293 千円	(3か年実施計画事業)						
	財源内訳	政策的事業であり、高齢者へ長寿祝金等を贈呈し感謝の意を表す。						
	市費	得られる成果						
	1,293 千円	長年にわたり社会に貢献してきた高齢者に祝金等を贈り、感謝とお祝いの意を表す。						
国費	目標値や目指すべき状態							
0 千円	高齢者の長寿を祝福できる状態							
県費	0 千円							
その他	0 千円							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果						
	703 千円	該当の高齢者に感謝の意を表し長寿を祝福することで、市民の敬老意識が高まり、該当者もこれまで以上に生きがいを感じ、更なる長寿の励みとなった。 成果指標 高齢者の長寿を祝福できる状態。						
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 長寿訪問については、敬老の日に合わせて市長等が高齢者宅を訪問し、長寿を祝福する気持ちを直接伝えることができた。 プラチナ婚・ダイヤモンド婚・金婚を祝う会については、記念品の内容を見直すとともに、より多くのご夫婦に記念撮影をしていただけるよう、写真クーポン券の利用案内を工夫した。						
	今後の事業の方向性	現状維持 今後も敬老・長寿を祝う事業として継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。						
A 課題の解決に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	—	⑦コスト削減余地	ある	※対象の変更
		②市民ニーズ	—	⑤成果向上の余地	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
		③休廃止の影響	小さい	⑥類似事業の有無	ない			

主要施策の成果報告書で活用

評価項目（決算時に作成）

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	17-4	
PDCA	主要事業名	高齢者健康祝事業	部課名	福祉部高齢介護課	担当 内線	茶谷 371	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 1 - 2 単位施策： 高齢者福祉					目標項目（予算計上時に作成）	
	全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 1,550 千円						
	会計 一般会計 歳出科目： 03.01.02.15.50						
	事業概要等	事業概要： 日頃から健康に留意し、健康寿命の延伸に貢献している高齢者へ敬意と感謝の気持ちを表し、数え88歳（米寿）の節目で「健康祝金」を贈呈する。					
		事業目的： 対象者に対して敬意と感謝の気持ちを表すとともに、高齢者の健康促進を図る。					
		事業内容： 数え88歳のうち、要介護・要支援認定を受けていない方に祝金5千円を贈呈する。					
		問題点： 健康寿命の延伸により対象者数が増加し、それに伴い事業費も増加する。					
	予算額	主要事業とする理由					
	1,550 千円	(3か年実施計画事業)					
	財源内訳	政策的事業であり、健康寿命の延伸に貢献している高齢者へ祝金を贈呈し敬意と感謝の気持ちを表す。					
市費	得られる成果						
1,550 千円	祝金を贈呈することで、更なる健康寿命の延伸に寄与する。						
国費	目標値や目指すべき状態						
0 千円	健康寿命の延伸に寄与できる状態。						
県費							
0 千円							
その他							
0 千円							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果				主要施策の成果報告書で活用	
	1,495 千円	該当の高齢者に敬意を表し祝金を贈呈することで、健康意識が高まり、これまで以上に生きがいを感じ、更なる健康寿命の延伸に寄与した。					
		成果指標					
C 課題の整理	事業の評価・課題	令和4年度から新規事業として実施しており、数え88歳の節目において、要介護等認定を受けておらず、健康寿命の延伸に貢献している方を対象に健康祝金を贈呈することで、高齢者の健康増進の励みとなった。				評価項目（決算時に作成）	
		B					
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	現状維持					
		高齢者の生きがいや健康促進の観点から今後も継続していくが、社会情勢等も踏まえながら、必要に応じて事業の実施方法等の見直しを検討していく。					
	観点別評価	必要性		有効性			効率性
	①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	—	⑦コスト削減余地	ある	
	②市民ニーズ	—	⑤成果向上の余地	ない	※対象の変更	—	
	③休廃止の影響	小さい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	